



ち え の わ

Vol. 19

## テレ・ツク・ツウ・テン・テン

会員 若林 擴

子供の頃、太鼓の音は「テレックツウテンテン」と聞こえていたが、「テ・レ」「ツ」「ク」「ツウ」「天」「天」はそのままだ、お囃子の締太鼓の楽譜でもある。

西洋音楽も最初は音を表す記号は無かった。初期の音符 Neumes は 1500 年から 3000 年の間に、ギリシャ人によって開発されたので、音符はギリシャ語のアルファベットに基づいて書かれている。西洋音楽の楽譜は、5 線譜に共通の音符で表してあり、世界中の誰もがこれを見て音を再現できる合理性がある。

日本の伝統音楽も同じく楽譜が無く、習得するものは師匠の演奏を直接見聞きし、指が押さえる位置即ち勘所を覚え、その音を覚えたに違いない。師匠は対面して直接教えることで生活の糧を稼ぐことが出来、弟子はなかなか覚えられないので長く月謝を払う羽目に落ち入る。

最初、各種伝統音楽の師匠は自分の音楽を保存するために、楽器に合わせ、各々独自の楽譜を考案した。後に多数の弟子に効率的に教える都合上、独自の楽譜が弟子に与えられたに違いない。したがって楽器が異なれば楽譜は全部が異なり、同じ長唄を同じ三味線で演奏するのに、流派が違えば楽譜も異なり、相互の共通性は殆ど無いと言ってよい。

例えば三味線音楽の長唄では、1 の糸、2 の糸、3 の糸を表わす 3 行の線の楽譜に、算用数字の 1, 2, 3 … の符号を 3 行の線に当て音程を表わし、0 は開放弦を示し、1 は 1 の勘所を表わす。

同じ三味線音楽でも地歌は、1 行の線の楽譜に、1 の糸、2 の糸、3 の糸の音程を表わす各数字を混在させ、1 の糸は人偏に漢数字の一、二、三、…、2 の糸は漢数字のみの一、二、三、…、3 の糸は算用数字の 1, 2, 3, …、を当てる。ただし何れも 1 は開放弦を表わし、0 ではない。音程の勘所は全て 2 から始まる。オイオイ、それでは 1 の音程の勘所は何処に行った

の？ 1 の音程の勘所は無し。

統一した音符が無く、統一した楽譜が無い日本の伝統音楽は世界的に発展しない訳である。中には同じ音楽を弾く他流派の楽譜の良いところを採用して、独自の楽譜に利用する師匠が居ても、各々楽譜は異なる。

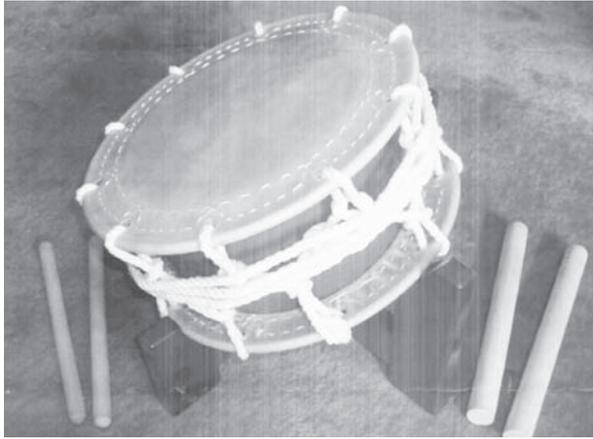
その点、締太鼓は楽譜が極めて原始的なのが良い。音そのまま楽譜である。大事なのはリズムと「間」である。今まで扱った楽器の中でこんなに早く馴染める楽器は無い。

太鼓で一番難しいのは、一番簡単な動作で、左右の撥で交互に、均等に、早く・強く・長く打つという動作である。撥を交互に打っているのに、段々左右の撥が揃って来て左右同時に打ってしまうのが不思議だ。

難しいのは「テ・レ」「ツ」「ク」「ツウ」「テン」、「ス」「ケ」「テン」「テン」の「ツ」に伴う「ウ」の「待ちの間」とサイレントの「ス」の「間」である。

「テレ・ツクツ・テン」「ス・ケ・テン・テン」「テン・テン・ツクツウ・テン」の繰り返しの手を定番の「芝居正天」の「地」という。江戸時代に芝居小屋が浅草聖天町近くにあったからと言われている。





「テン・テン・ツ・テン・テン・1・2・テケ・テン・テン」を「手の狂言鞆鼓」といってこれも定番の太鼓の手であり、歌舞伎などで袖にしつらえた黒御簾内の下座の太鼓を聞いているとその手が頻繁に使われているのが判る。

太鼓の欠点はチューニングが出来ないことであり、またそれが都合の良いところでもある。湿度に合わせて皮の張り具合を紐で引き締めて音の高低を調節するだけで、音程を他の楽器に合わせる必要が無い。

その点、同じくチューニングが出来ない篠笛は、他の楽器の音程に合わせるために、プロは常に調子の異なる笛を1本から12本まで持ち歩き、演奏会ではそ

の都度他の楽器の音程に合わせた調子の笛を選び出して演奏しなければならない。

今年も芸大のサマースクールで、去年の篠笛に引き続き縮太鼓を教えて頂いた。ミレニアム・ホールで開催される「芸大生フレッシュ・コンサート」に出演し、芸大生の三味線と共に長唄「さくらさくら」「越後獅子」の太鼓を打たせてもらった。

今でもローカル・テレビに去年の「芸大生フレッシュ・コンサート」における私の篠笛演奏が時々流されていると聞くと、今年も「さくらさくら」「越後獅子」での私の太鼓の演奏が流されることでしょう。

写真は私の稽古用の縮太鼓で、刳り抜き樗桐に純白の麻紐で皮が締め付けられ、撥は曲調に合わせて使い分ける細撥と太撥である。

来年は芸大で是非「琴」を教えて頂き、既に「胡弓」と「地唄三味線」を習得していることから、歌舞伎「壇浦兜軍記」の三段目「阿古屋琴責の段」で、「傾城阿古屋」を演ずる女形自身が、真似事ではなく、琴・地唄三味線・胡弓の3種の楽器を、舞台の上で実際に演奏して見せるのに倣って、現在は坂東玉三郎のみが演ずる傾城阿古屋の様に、琴、胡弓、地唄三味線の3曲を是非演奏してみたいものである。